

2022年3月3日

報道関係各位

Z世代が考える社会を良くするための社会運動調査2022

日本労働組合総連合会(略称:連合、所在地:東京都千代田区、会長:芳野 友子)は、Z世代(※1)の社会運動に対する意識と実態を把握し、新しい労働運動スタイルの検討につなげることを目的に、「Z世代が考える社会を良くするための社会運動調査2022」をインターネットリサーチにより2021年12月21日～12月23日の3日間で実施、全国の15歳～29歳の男女1,500名の有効サンプルを集計しました(調査協力機関:ネットエイジア株式会社)。

※1 概ね 1990 年代後半から 2000 年代に生まれた世代と定義されています。本調査では社会人世代も含めた 15 歳～29 歳を対象としました。

※2 本調査では、現在の属性を「正社員・正職員、契約社員・嘱託社員、パート・アルバイト、派遣社員、自営業・フリーランス」と選択した人を「社会人 Z 世代」、「学生」と選択した人を「学生 Z 世代」と称して評価しました。

【調査結果のポイント】

《社会課題への関心について》

- ◆ 約 9 割が社会課題に関心ありと回答し、「身近に直面したことがある課題」に関心が高い
社会人 Z 世代(※2)の関心の 1 位は「長時間労働」、2 位は「いじめ」、3 位は「医療・社会保障」
学生 Z 世代(※2)の関心の 1 位は「ジェンダーにもとづく差別」、2 位は「いじめ」、3 位は「自殺問題」
- ◆ 社会課題に関心を持ったきっかけの 1 位は「テレビ」、2 位は「学校の授業」
環境、平和、健康、経済・社会の分野では「学校の授業」
ジェンダー平等、人権の分野では「SNS」「ネット記事」の影響力も

《これまで参加した社会運動について》

- ◆ 社会運動参加経験率は約 4 割
参加経験のある社会運動の 1 位は「知識を深めるためのセミナー」、2 位は「SNS での個人の発信」
- ◆ 社会運動に参加した理由の 1 位は「自分ができることをしたかったから」、「顔や名前を出さない」ことを重視する傾向

《これからの社会運動について》

- ◆ 社会運動への期待の 1 位は「運動の成果を感じられること」
- ◆ 参加したい社会運動の 1 位は「政府や団体、企業への要請」
環境、平和、健康、経済・社会、労働の分野では「政府や団体、企業への要請」が 1 位
教育、ジェンダー平等、人権の分野では「SNS での個人の発信」が 1 位
参加したくない社会運動は「集会やデモ、マーチ、パレードなど」

《調査に関するコメント》

「若者の期待に応える新しい運動スタイルの構築を」

日本労働組合総連合会 総合運動推進局長 内藤靖博

今回の調査結果では、昨年の【多様な社会運動と労働組合に関する意識調査 2021】と同様に、若者の社会課題への関心の高さが明らかとなり、加えて「身近に直面した社会課題」に関心が高い傾向が浮き彫りとなりました。課題の項目ごとでは、社会人 Z 世代は「長時間労働」、学生 Z 世代は「ジェンダーにもとづく差別」などに関心が高くなっています。

また、調査結果やそれを踏まえた座談会※での Z 世代の意見から、若者の社会課題への気づきが、単にテレビや学校の授業などから情報を得るプロセスのみならず、「自らが社会課題に直面し、その後に報道や学習などを通じて、それが個人的なものではなく社会的な課題であると認識する」というプロセスもあり得るものと受け止めています。

今後、若者へのアプローチを検討するにあたっては、関心の高い課題はもとより、こうした「社会課題に関心を持つプロセス」にも目を向ける必要があると考えます。

他方、社会課題解決のために参加したい運動として、「政府や関係団体などへの要請」がトップとなり、次いで「知識を深めるためのセミナー参加」が高い結果となりました。要請行動や各種セミナー・シンポジウム等、連合が行う運動の積極的なアピールとともに、知識の蓄積にとどまらない実行動の大切さを訴えていくことも重要であると感じています。

今回の結果から、若者は社会運動に対して「顔や名前を出さずに参加できること、気軽に参加できること」を重視する傾向にありますが、「自分ができたいことをしたい」という前向きな気持ちや、「運動の成果、課題のわかりやすさ、人とのつながり」などの社会運動に対する期待をしっかり受け止めながら、連合としての今後の運動のあり方を検討してまいりたいと思います。

※座談会「Z 世代が考える社会を良くするための社会運動調査」結果を読み解く

Z 世代×社会運動×労働組合（月刊連合 2022 年 3 月号掲載）

◆社会課題への関心について(p.4- p.10)

- ・「関心のある社会課題がある」Z世代の87.0%
- ・Z世代が関心のある社会課題
1位「いじめ」20.7%、2位「長時間労働」18.7%、
3位「自殺問題」16.7%、4位「ジェンダーにもとづく差別」16.3%
男性1位は「長時間労働」19.1%、女性1位は「ジェンダーにもとづく差別」23.6%
社会人Z世代1位は「長時間労働」21.9%、学生Z世代1位は「ジェンダーにもとづく差別」22.7%
- ・社会課題に関心を持った理由
“いじめ”では1位「身近にこの問題に直面したことがある」2位「困っている人がいるなら助けたい」
“長時間労働”では1位「自分のくらしを守ることになる」2位「身近にこの問題に直面したことがある」
“自殺問題”では1位「人の生命にかかわる問題」2位「困っている人がいるなら助けたい」
“ジェンダーにもとづく差別”では1位「人権にかかわる問題」2位「身近にこの問題に直面したことがある」
- ・「身近にこの問題に直面したことがある」が突出して高くなった社会課題は“奨学金問題”と“不登校”
- ・社会課題に関心を持ったきっかけ
8分野の社会課題のうち7分野では「テレビで見た」がダントツ、テレビの影響力の大きさが明らかに
環境、平和、健康、経済・社会では「学校の授業」、ジェンダー平等、人権では「SNS」「ネット記事」の影響力も

◆これまで参加した社会運動について(p.11- p.13)

- ・Z世代の社会運動参加経験率は36.8%
- ・参加経験のある社会運動 1位「知識を深めるためのセミナー」2位「SNSでの個人の発信」
- ・社会運動に参加した理由 1位「自分ができるところをしてみたから」
2位「自分の気持ちを表現してみたから」3位「友人・知人・家族に誘われたから」
- ・社会運動に参加したことがない理由 1位「顔や名前が出てしまうことに抵抗があるから」
2位「参加するには自身に知識が足りないと思うから」3位「忙しかったから」

◆これからの社会運動について(p.14- p.19)

- ・参加できると思う社会運動
1位「顔や名前を出さずに参加できる」2位「気軽に参加できる」3位「参加したいときだけ参加すればいい」
4位「ネット上で完結できる」「性別や世代に関係なくいろいろな人が参加している」
- ・これからの社会運動に期待すること
1位「運動の成果を感じられる」2位「課題がわかりやすい」3位「人とのつながりを感じられる」
4位「全体の一体感がある」5位「参加して楽しい」「自身のキャリア形成につながる」
- ・参加したくない社会運動
「集会やデモ、マーチ、パレードなど」に対してZ世代の46.8%が忌避感を抱く
他方、「政府や団体、企業への要請」に対して忌避感を抱く割合は14.0%にとどまる
- ・関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動
環境、平和、健康、経済・社会、労働の分野では「政府や団体、企業への要請」が1位、
教育・ジェンダー平等・人権の分野では「SNSでの個人の発信」が1位

調査結果

《社会課題への関心について》

今回の調査では、下記の8分野全36項目の社会課題について、関心の有無や関心を持った経緯などを調査しました。

① 環境に関する課題

…気候変動／エネルギー資源(再生可能エネルギーの活用含む)／生態系および自然の保護／大量生産・大量廃棄問題

② 平和に関する課題

…戦争・紛争・テロ／核兵器廃絶／移民・難民問題／被災地支援や防災

③ 健康に関する課題

…健康・医療・福祉の格差／貧困問題／食糧問題(飢餓・食糧の安定確保など含む)／高齢化問題(介護問題含む)

④ 教育に関する課題

…教育格差／いじめ／不登校／奨学金問題(学費高騰問題含む)

⑤ ジェンダー平等に関する課題

…女性活躍推進／ジェンダーにもとづく差別／選択的夫婦別姓／性的指向・性自認(性的マイノリティ課題含む)／暴力とハラスメント

⑥ 人権に関する課題

…個人情報保護／メディア・ネットリテラシー(誹謗中傷など含む)／自殺問題／児童虐待

⑦ 経済・社会に関する課題

…経済成長／医療・社会保障(年金問題含む)／デジタル化の遅れ／人口減少／大都市一極集中と地域活性化／所得格差

⑧ 労働に関する課題

…長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)／職場のハラスメント／障がい者雇用の問題／外国人労働者の問題／非正規雇用やフリーランスなどの問題

◆「関心のある社会課題がある」Z世代の87.0%
◆Z世代が関心のある社会課題
1位「いじめ」20.7%、2位「長時間労働」18.7%、3位「自殺問題」16.7%、4位「ジェンダーにもとづく差別」16.3%
男性1位は「長時間労働」19.1%、女性1位は「ジェンダーにもとづく差別」23.6%
社会人Z世代1位は「長時間労働」21.9%、学生Z世代1位は「ジェンダーにもとづく差別」22.7%

若者がどのような社会課題に関心を持ち、どのような社会運動を望んでいるのか、また、若者とともに社会運動を進めるためにはどのようなアプローチが必要となるのかを探るため、いわゆる“Z世代”（※）に当たる、15歳～29歳の男女1,500名（全回答者）に、社会課題について質問しました。

※本調査では、Z世代とは概ね1990年代中盤から2000年代中盤に生まれた世代を指すものとし、Z世代に当たる15歳～29歳の男女を調査対象としました。

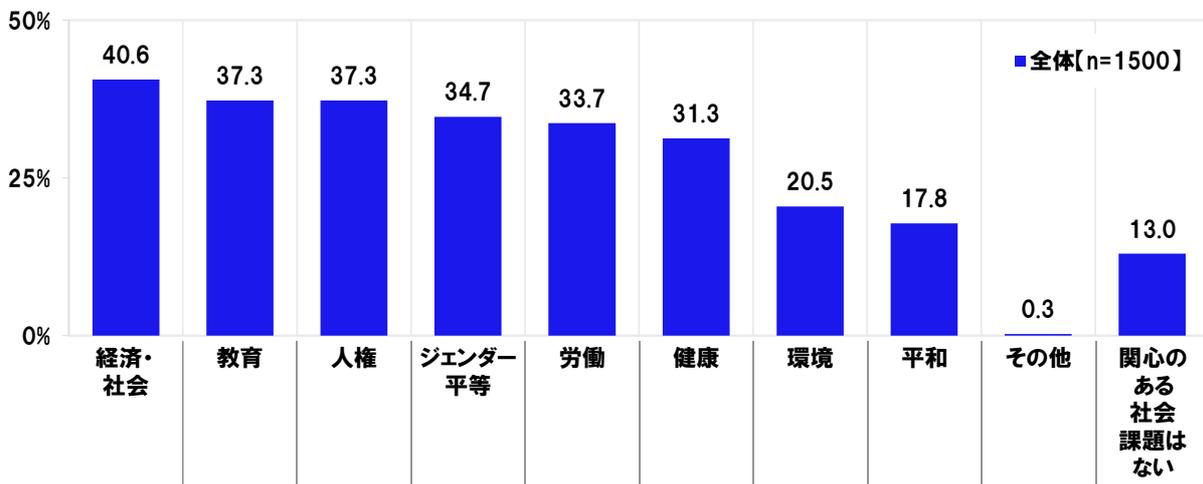
まず、全回答者（1,500名）に、関心のある社会課題があるか聞いたところ、「ある」は87.0%、「ない」は13.0%となりました。Z世代と呼ばれる若年層の社会課題に対する関心の高さが見て取れる結果となりました。

年齢層別にみると、関心のある社会課題がある人の割合は、15歳～19歳92.2%、20歳～24歳86.8%、25歳～29歳82.0%と、Z世代の中でも特に10代の関心の高さが浮き彫りとなりました。



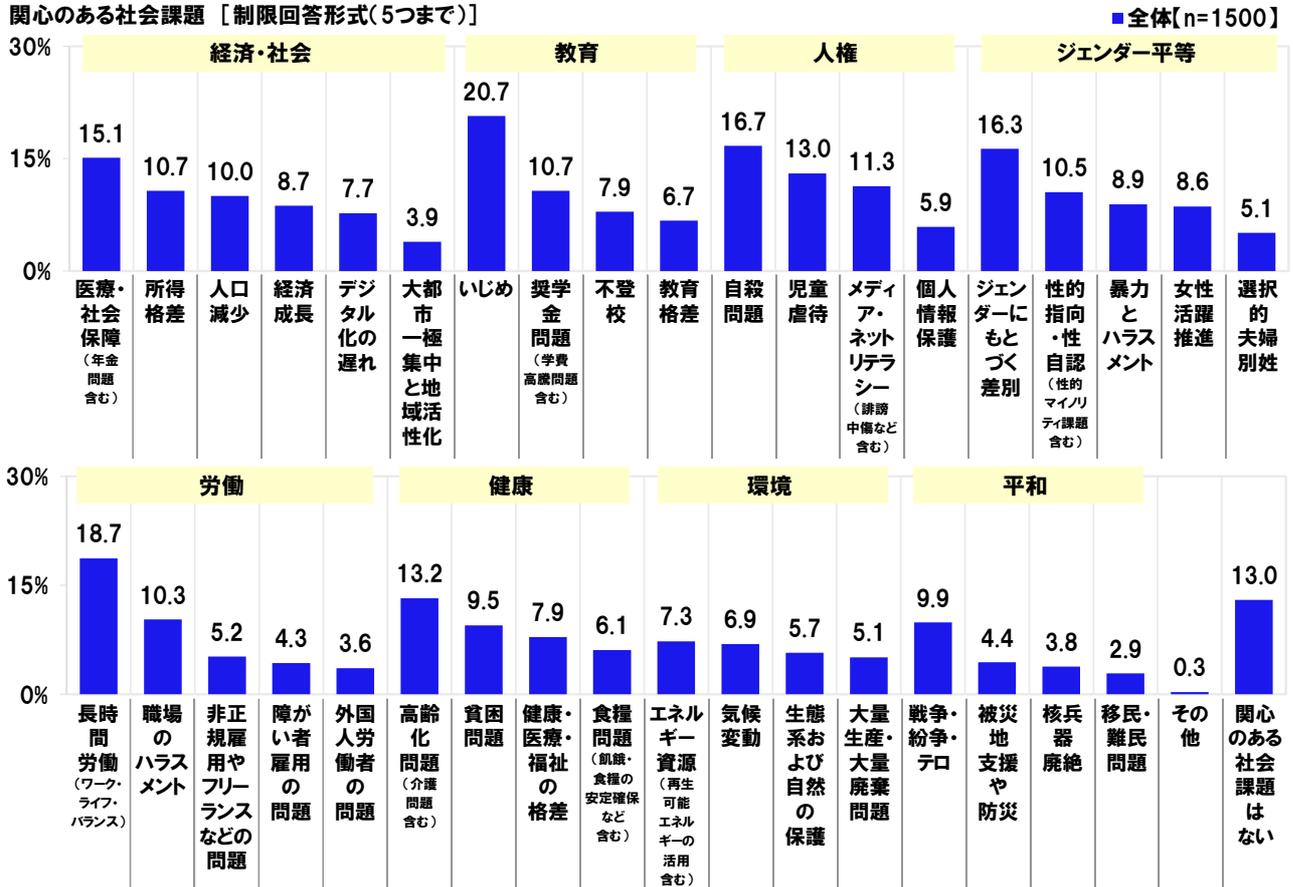
では、どのような社会課題に関心を持っている人が多いのでしょうか。

全回答者（1,500名）に、関心のある社会課題の分野を聞いたところ、「経済・社会」（40.6%）が最も高くなり、「教育」「人権」（いずれも37.3%）、「ジェンダー平等」（34.7%）、「労働」（33.7%）が続きました。

関心のある社会課題の分野


また、関心のある社会課題を分野ごとにみると、【経済・社会】では「医療・社会保障(年金問題含む)」(15.1%)、【教育】では「いじめ」(20.7%)、【人権】では「自殺問題」(16.7%)、【ジェンダー平等】では「ジェンダーにもとづく差別」(16.3%)、【労働】では「長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)」(18.7%)、【健康】では「高齢化問題(介護問題含む)」(13.2%)、【環境】では「エネルギー資源(再生可能エネルギーの活用含む)」(7.3%)、【平和】では「戦争・紛争・テロ」(9.9%)がそれぞれ最も高くなりました。

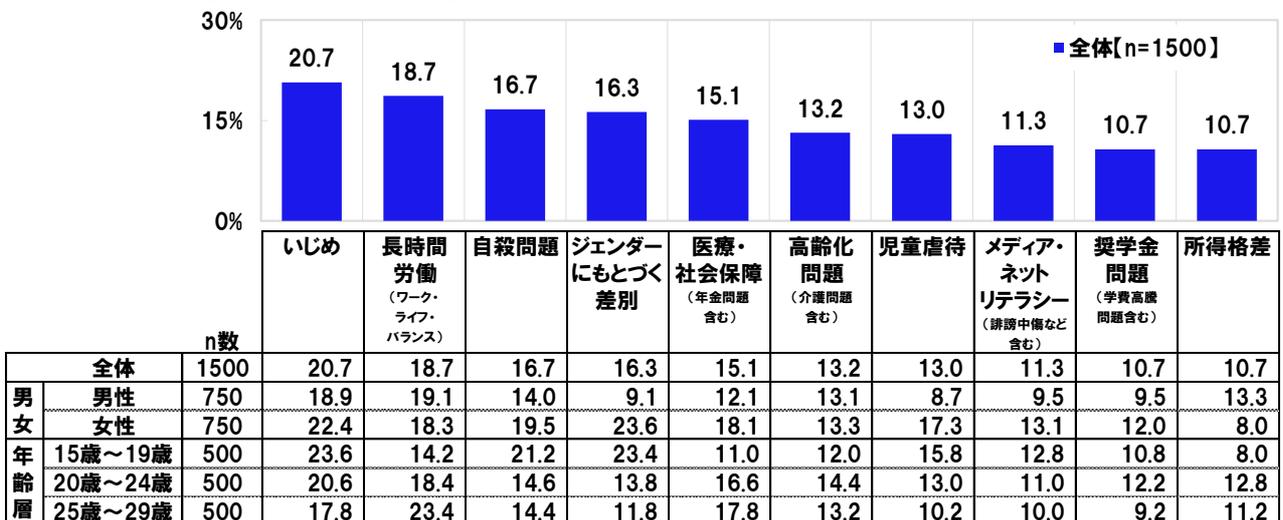
関心のある社会課題 [制限回答形式(5つまで)]



すべての項目をまとめてみると、「いじめ」(20.7%)が最も高くなり、「長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)」(18.7%)、「自殺問題」(16.7%)、「ジェンダーにもとづく差別」(16.3%)、「医療・社会保障(年金問題含む)」(15.1%)が続きました。

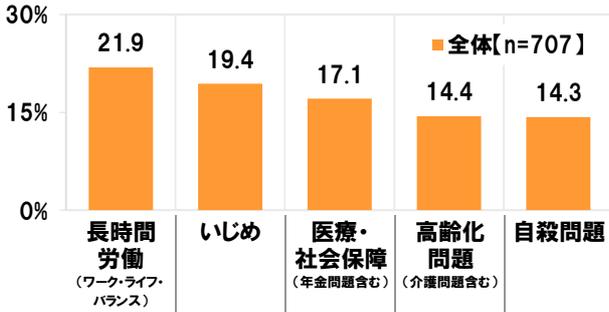
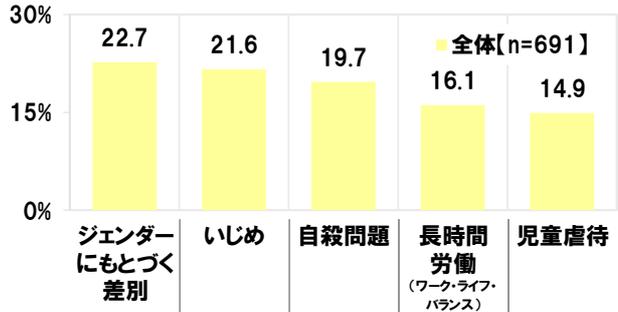
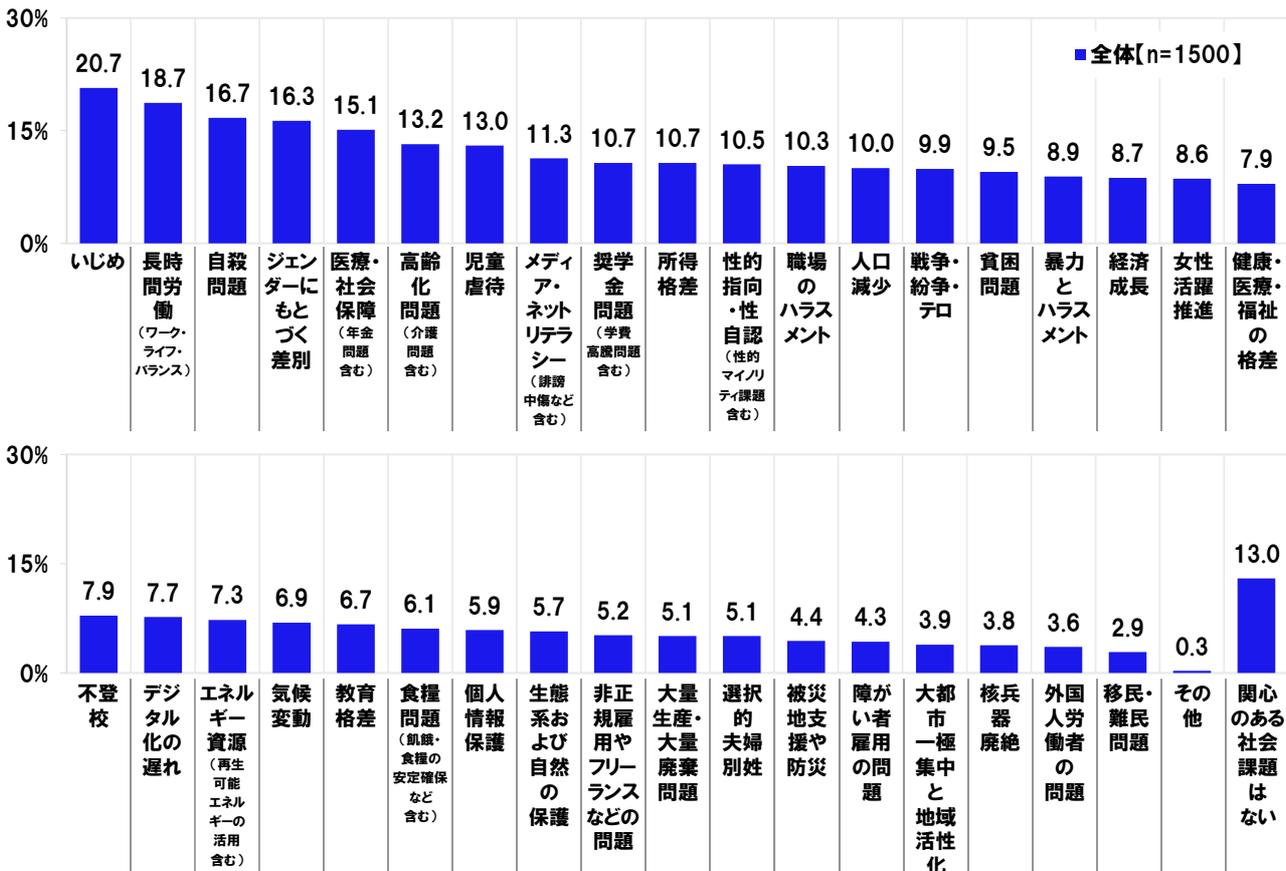
男女別にみると、男性では「長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)」(19.1%)、女性では「ジェンダーにもとづく差別」(23.6%)が最も高くなりました。

関心のある社会課題 [制限回答形式(5つまで)] ※上位10位までを表示



(%)

職業別にみると、社会人 Z 世代では 1 位「長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)」(21.9%)、2 位「いじめ」(19.4%)、3 位「医療・社会保障(年金問題含む)」(17.1%)、4 位「高齢化問題(介護問題含む)」(14.4%)、5 位「自殺問題」(14.3%)となり、学生 Z 世代では 1 位「ジェンダーにもとづく差別」(22.7%)、2 位「いじめ」(21.6%)、3 位「自殺問題」(19.7%)、4 位「長時間労働(ワーク・ライフ・バランス)」(16.1%)、5 位「児童虐待」(14.9%)となりました。

関心のある社会課題 [制限回答形式(5つまで)]
対象:社会人Z世代 ※上位5位までを表示

関心のある社会課題 [制限回答形式(5つまで)]
対象:学生Z世代 ※上位5位までを表示

【参考】全 36 項目
関心のある社会課題 [制限回答形式(5つまで)]


◆社会課題に関心を持った理由

“いじめ”では1位「身近にこの問題に直面したことがある」2位「困っている人がいるなら助けたい」

“長時間労働”では1位「自分のくらしを守ることになる」2位「身近にこの問題に直面したことがある」

“自殺問題”では1位「人の生命にかかわる問題」2位「困っている人がいるなら助けたい」

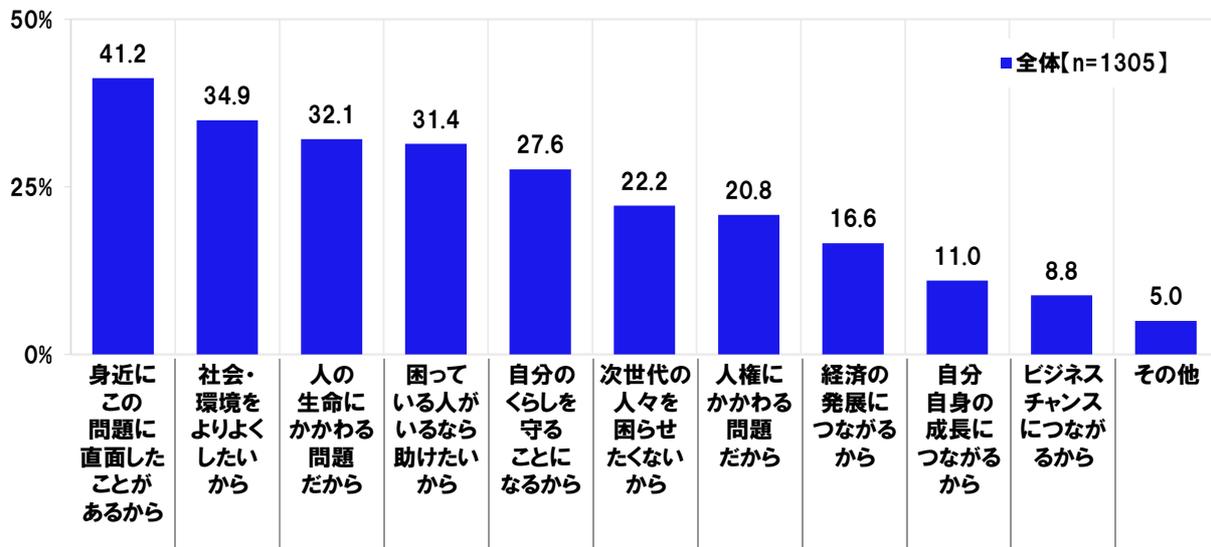
“ジェンダーにもとづく差別”では1位「人権にかかわる問題」2位「身近にこの問題に直面したことがある」

◆「身近にこの問題に直面したことがある」が突出して高くなった社会課題は“奨学金問題”と“不登校”

関心のある社会課題について、それぞれの社会課題に関心がある人に、社会課題に関心を持った理由を聞きました。

全体の結果をみると、「身近にこの問題に直面したことがあるから」(41.2%)が最も高くなり、「社会・環境をよりよくしたいから」(34.9%)、「人の生命にかかわる問題だから」(32.1%)、「困っている人がいるなら助けたいから」(31.4%)、「自分のくらしを守ることになるから」(27.6%)が続きました。

社会課題に関心を持った理由
対象：社会課題に関心がある人



関心のある社会課題として挙げた上位 10 項目についてみると、【いじめ】では 1 位「身近にこの問題に直面したことがあるから」(25.8%)、2 位「困っている人がいるなら助けたいから」(22.6%)、【長時間労働】では 1 位「自分のくらしを守ることになるから」(26.1%)、2 位「身近にこの問題に直面したことがあるから」(24.3%)、【自殺問題】では 1 位「人の生命にかかわる問題だから」(41.8%)、2 位「困っている人がいるなら助けたいから」(21.9%)、【ジェンダーにもとづく差別】では 1 位「人権にかかわる問題だから」(32.2%)、2 位「身近にこの問題に直面したことがあるから」(19.2%)となりました。実際に身近に直面した経験が理由となって関心を持つようになったケースは多いようです。

自由回答で聴取した「その他」の回答内容をみると、【いじめ】では「息子が知的障がい児で将来いじめに遭うこともあるのではないかと不安であるから」、【長時間労働】では「自分にとっても関係しているため」、【自殺問題】では「大学の講義で学んだから」、【ジェンダーにもとづく差別】では「多様性を認める社会になってほしいから」、【医療・社会保障】では「医療関係の仕事をしているから」、【高齢化問題】では「自分が高齢になったときのことが心配だから」といった理由がありました。

社会課題に関心を持った理由 [各単一回答形式]
対象:それぞれの社会課題に関心がある人

	身近にこの問題に直面したことがあるから	社会・環境をよりよくしたいから	人の生命にかかわる問題だから	困っている人がいるなら助けたいから	自分のくらしを守ることになるから	次世代の人々を困らせたくないから	人権にかかわる問題だから	経済の発展につながるから	自分自身の成長につながるから	ビジネスチャンスにつながるから	その他	特になし
いじめ 【n=310】	25.8	7.7	20.0	22.6	1.0	4.5	10.6	0.6	2.3	1.3	0.3	3.2
長時間労働 【n=280】	24.3	18.2	9.3	5.0	26.1	4.6	2.9	0.7	3.6	1.8	1.1	2.5
自殺問題 【n=251】	15.9	7.2	41.8	21.9	1.6	2.4	4.0	0.8	1.2	0.8	0.8	1.6
ジェンダーにもとづく差別 【n=245】	19.2	10.6	0.4	16.3	3.7	4.9	32.2	2.0	3.7	1.6	2.4	2.9
医療・社会保障 【n=227】	15.9	9.7	12.3	9.7	27.3	10.1	1.8	2.6	3.1	1.8	2.2	3.5
高齢化問題 【n=198】	21.7	11.6	4.5	9.6	17.7	22.2	0.5	5.1	2.0	0.5	2.0	2.5
児童虐待 【n=195】	10.8	3.6	34.4	27.2	1.5	4.1	8.2	2.6	2.1	1.0	1.0	3.6
メディア・ネットリテラシー 【n=169】	12.4	14.2	24.3	8.9	5.9	4.1	22.5	1.8	2.4	1.2	1.2	1.2
奨学金問題 【n=161】	54.0	3.7	1.2	6.2	16.1	8.7	0.6	1.2	1.2	1.2	3.7	1.9
所得格差 【n=160】	25.0	13.1	5.6	5.0	25.0	3.1	0.6	9.4	5.0	3.1	1.9	3.1

(%)

*黄色塗りのものは1位・2位項目

「身近にこの問題に直面したことがあるから」と回答した割合が高い社会課題は、1 位【奨学金問題】(54.0%)、2 位【不登校】(41.2%)、3 位【障がい者雇用の問題】(33.8%)でした。

社会課題に関心を持った理由で「身近にこの問題に直面したことがあるから」と回答した割合

※上位5位までを表示

対象:社会課題に関心がある人


◆社会課題に関心を持ったきっかけ

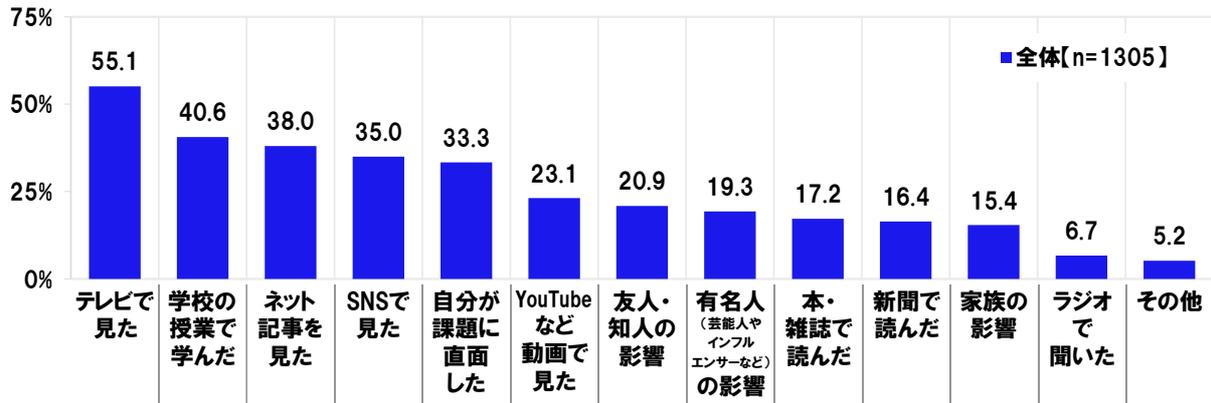
8分野の社会課題のうち7分野では「テレビで見た」がダントツ、テレビの影響力の大きさが明らかに環境、平和、健康、経済・社会では「学校の授業」、ジェンダー平等、人権では「SNS」「ネット記事」の影響力も

次に、関心のある社会課題について、それぞれの社会課題に関心がある人に、社会課題に関心を持ったきっかけを聞きました。

全体の結果をみると、「テレビで見た」(55.1%)が最も高くなり、「学校の授業で学んだ」(40.6%)、「ネット記事を見た」(38.0%)、「SNSで見た」(35.0%)、「自分が課題に直面した」(33.3%)が続きました。

社会課題に関心を持ったきっかけ [複数回答形式]

対象:社会課題に関心がある人



8分野の社会課題ごとに関心を持ったきっかけをみると、【環境】【平和】【教育】【ジェンダー平等】【人権】【経済・社会】【労働】では「テレビで見た」(順に 44.5%、40.8%、34.5%、40.2%、49.7%、42.0%、36.8%)が1位となり、【健康】では「学校の授業で学んだ」(36.8%)が1位となりました。【環境】【平和】【経済・社会】では「学校の授業で学んだ」(順に 30.5%、36.0%、27.4%)が2位となり、【教育】【労働】では「自分が課題に直面した」(順に 29.5%、27.7%)が2位となりました。また、【ジェンダー平等】【人権】では「SNSで見た」(順に 30.8%、33.3%)が2位、「ネット記事を見た」(順に 27.9%、30.2%)が3位となり、SNSやネット記事をきっかけとする割合が他の分野と比べて高くなりました。

社会課題に関心を持ったきっかけ [各複数回答形式]

対象:それぞれの社会課題に関心がある人

	テレビで見た	学校の授業で学んだ	ネット記事を見た	SNSで見た	自分が課題に直面した	YouTubeなど動画で見た	友人・知人の影響	有名人(芸能人やインフルエンサーなど)の影響	本・雑誌で読んだ	新聞で読んだ	家族の影響	ラジオで聞いた	その他
環境 [n=308]	44.5	30.5	25.6	20.5	14.6	15.6	6.2	7.1	10.1	8.4	3.6	2.6	3.6
平和 [n=267]	40.8	36.0	29.2	19.1	9.0	21.3	7.9	4.1	15.7	16.5	6.4	3.7	1.9
健康 [n=470]	34.5	36.8	22.6	16.8	13.2	8.3	5.7	4.9	9.6	9.8	9.1	3.2	2.6
教育 [n=559]	34.5	23.6	20.0	20.8	29.5	10.2	16.3	7.0	8.1	7.9	7.7	3.0	2.3
ジェンダー平等 [n=520]	40.2	23.5	27.9	30.8	15.4	13.1	16.2	15.0	10.0	10.4	4.8	3.3	2.1
人権 [n=559]	49.7	24.2	30.2	33.3	10.6	16.3	7.0	20.4	7.3	8.8	4.7	2.9	3.0
経済・社会 [n=609]	42.0	27.4	27.3	16.6	16.6	10.7	6.1	5.4	9.5	10.5	8.5	4.9	4.4
労働 [n=506]	36.8	16.8	23.5	18.2	27.7	11.3	10.1	5.7	6.3	6.7	9.7	2.6	3.0

*黄色塗りのものは1位・2位項目

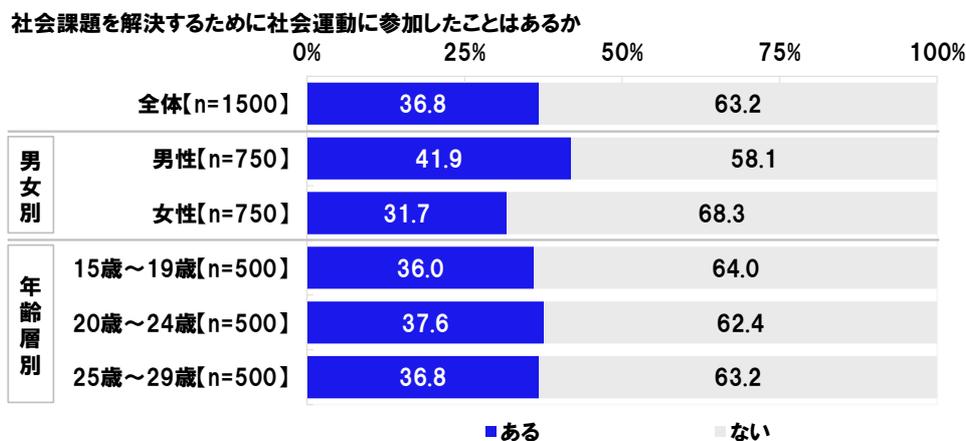
(%)

《これまで参加した社会運動について》
◆Z世代の社会運動参加経験率は36.8%
◆参加経験のある社会運動 1位「知識を深めるためのセミナー」2位「SNSでの個人の発信」

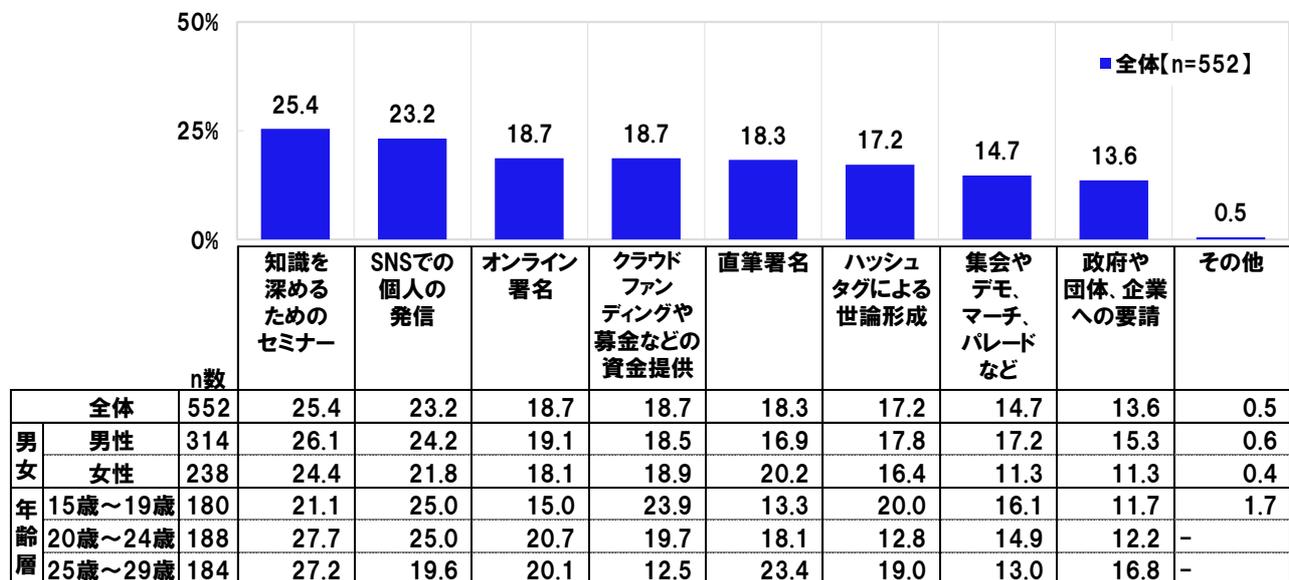
続いて、社会の問題解決や社会制度の改善・変革を目的として行われる組織的もしくは集合的な運動である“社会運動”に関して質問しました。

まず、全回答者(1,500名)に、社会課題を解決するために、社会運動に参加したことはあるか聞いたところ、「ある」は36.8%、「ない」は63.2%となりました。

男女別にみると、社会運動に参加したことがある人の割合は、男性では41.9%と、女性(31.7%)と比べて10.2ポイント高くなりました。



また、社会運動に参加したことが「ある」と回答した552名について、どのような社会運動に参加したのかをみてみると、「知識を深めるためのセミナー」が25.4%、「SNSでの個人の発信」が23.2%、「オンライン署名」と「クラウドファンディングや募金などの資金提供」が18.7%、「直筆署名」が18.3%、「ハッシュタグによる世論形成」が17.2%、「集会やデモ、マーチ、パレードなど」が14.7%、「政府や団体、企業への要請」が13.6%となりました。

社会課題を解決するために参加したことがある社会運動 [複数回答形式]
対象:社会課題を解決するために社会運動に参加したことがある人


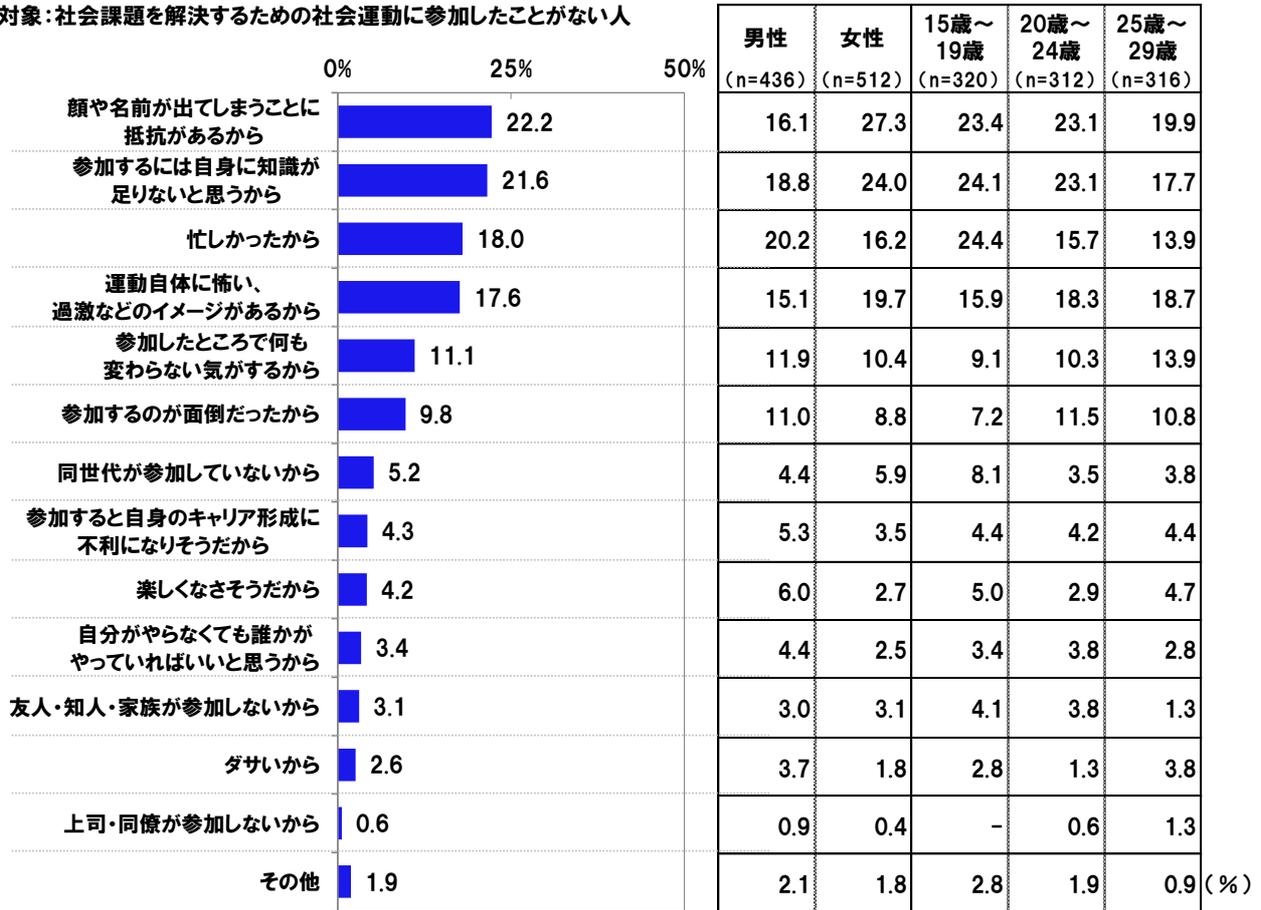
- ◆**社会運動に参加した理由** 1位「自分ができるところをしたかったから」
 2位「自分の気持ちを表現したかったから」3位「友人・知人・家族に誘われたから」
 ◆**社会運動に参加したことがない理由** 1位「顔や名前が出てしまうことに抵抗があるから」
 2位「参加するには自身に知識が足りないと思うから」3位「忙しかったから」

社会課題を解決するための社会運動に参加したことがある人(552名)に、社会運動に参加した理由を聞いたところ、「自分ができるところをしたかったから」(27.9%)が特に高くなりました。社会の問題解決や社会制度の改善・変革に向けて、自分ができるところから行動を起こすことによって、社会課題解決の一翼を担いたいという意欲を持っている人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「自分の気持ちを表現したかったから」(19.7%)、「友人・知人・家族に誘われたから」(15.0%)、「顔や名前を出さずに参加できたから」(14.9%)、「暇だった・時間があつたから」(13.0%)でした。

社会課題を解決するための社会運動に参加した理由 [複数回答形式]
 対象:社会課題を解決するための社会運動に参加したことがある人



他方、社会課題を解決するための社会運動に参加したことがない人(948名)に、社会運動に参加したことがない理由を聞いたところ、「顔や名前が出てしまうことに抵抗があるから」(22.2%)が最も高くなりました。匿名性が十分に保たれるかどうかを不安に感じている人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「参加するには自身に知識が足りないと思うから」(21.6%)、「忙しかったから」(18.0%)、「運動自体に怖い、過激などのイメージがあるから」(17.6%)、「参加したところで何も変わらない気がするから」(11.1%)でした。

社会課題を解決するための社会運動に参加したことがない理由【複数回答形式】
対象：社会課題を解決するための社会運動に参加したことがない人

■全体[n=948]

《これからの社会運動について》
◆参加できると思う社会運動

1位「顔や名前を出さずに参加できる」2位「気軽に参加できる」3位「参加したいときだけ参加すればいい」
4位「ネット上で完結できる」「性別や世代に関係なくいろいろな人が参加している」

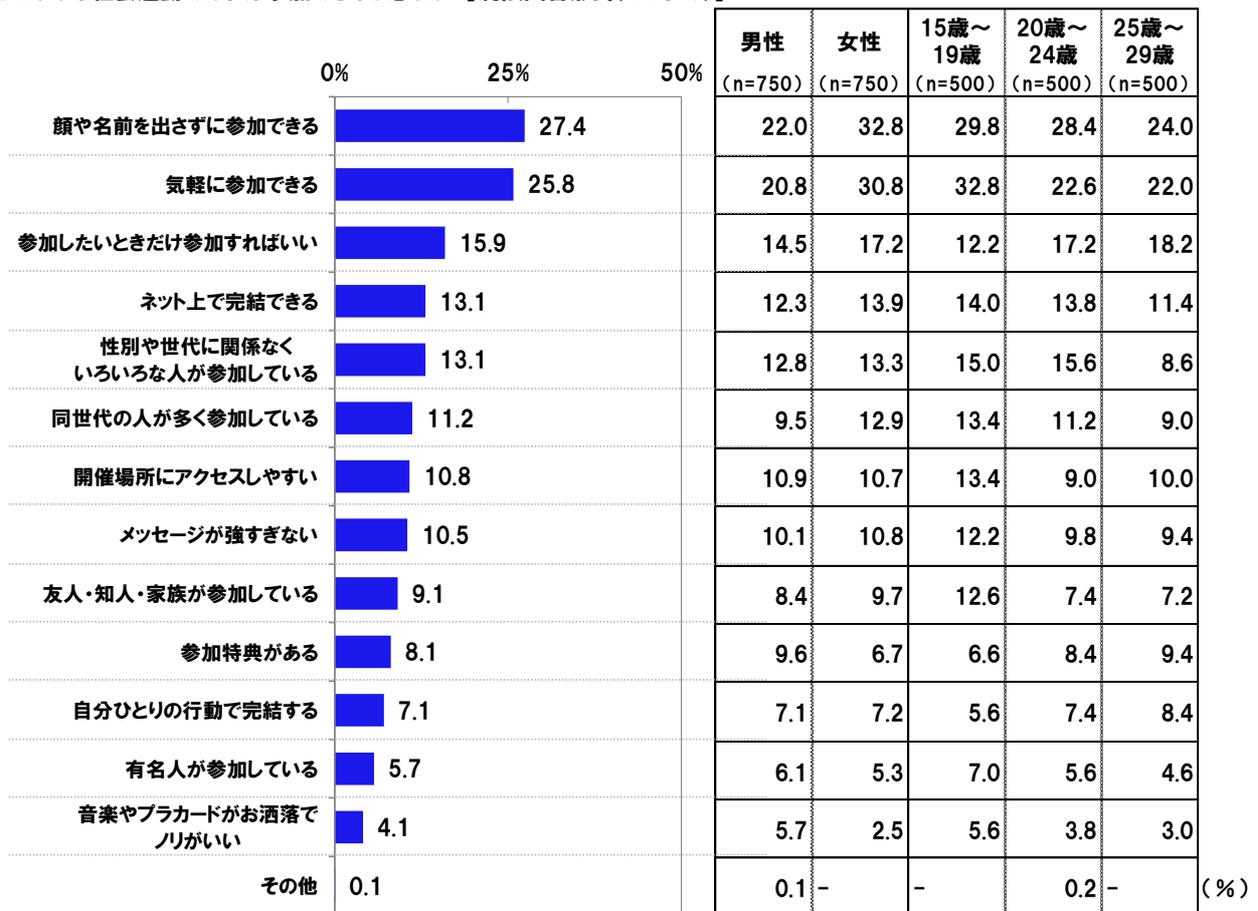
◆これからの社会運動に期待すること

1位「運動の成果を感じられる」2位「課題がわかりやすい」3位「人とのつながりを感じられる」
4位「全体の一体感がある」5位「参加して楽しい」「自身のキャリア形成につながる」

これからの社会運動について質問しました。

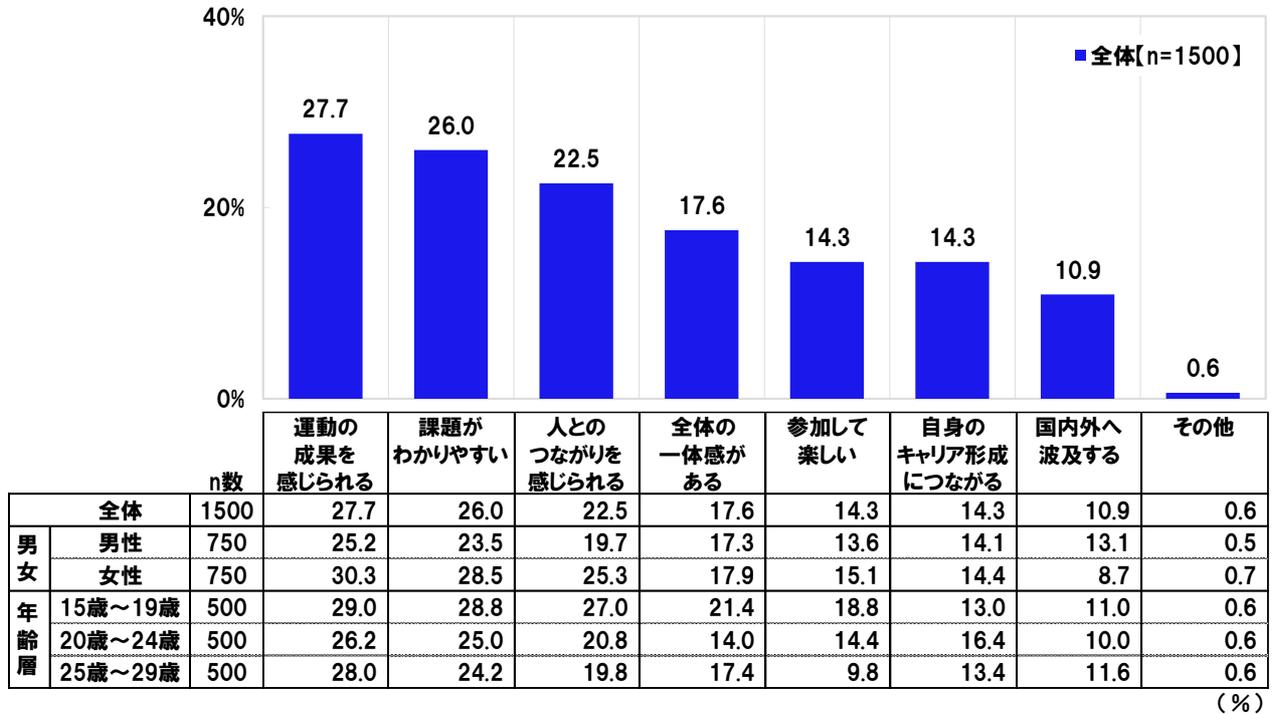
全回答者(1,500名)に、どのような社会運動であれば参加できると思うか聞いたところ、「顔や名前を出さずに参加できる」(27.4%)が最も高くなりました。匿名性の確保された社会運動であれば参加しやすいと感じる人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「気軽に参加できる」(25.8%)、「参加したいときだけ参加すればいい」(15.9%)、「ネット上で完結できる」「性別や世代に関係なくいろいろな人が参加している」(いずれも13.1%)でした。

どのような社会運動であれば参加できると思うか [制限回答形式(3つまで)]



また、これからの社会運動にはどのようなことを期待するか聞いたところ、「運動の成果を感じられる」(27.7%)が最も高くなり、「課題がわかりやすい」(26.0%)、「人とのつながりを感じられる」(22.5%)、「全体の一体感がある」(17.6%)、「参加して楽しい」「自身のキャリア形成につながる」(いずれも 14.3%)が続きました。

これからの社会運動に期待すること【制限回答形式(3つまで)】



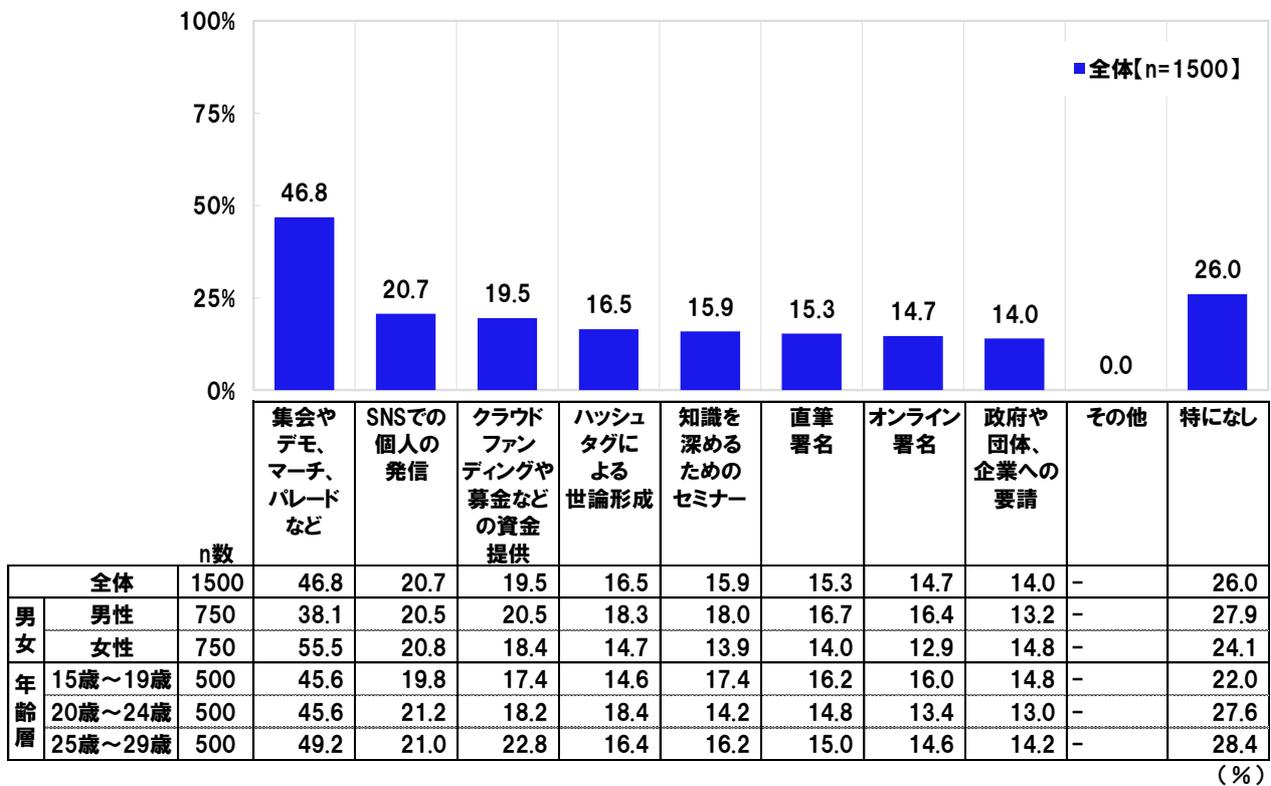
◆参加したくない社会運動

**「集会やデモ、マーチ、パレードなど」に対してZ世代の46.8%が忌避感を抱く
他方、「政府や団体、企業への要請」に対して忌避感を抱く割合は14.0%にとどまる**

全回答者(1,500名)に、社会課題を解決するための社会運動として、参加したくないものを聞いたところ、「集会やデモ、マーチ、パレードなど」(46.8%)が突出して高くなりました。次いで高くなったのは、「SNSでの個人の発信」(20.7%)、「クラウドファンディングや募金などの資金提供」(19.5%)、「ハッシュタグによる世論形成」(16.5%)、「知識を深めるためのセミナー」(15.9%)でした。他方、「政府や団体、企業への要請」が14.0%で最も低くなりました。

男女別にみると、女性では「集会やデモ、マーチ、パレードなど」が55.5%と、男性(38.1%)と比べて17.4ポイント高くなりました。

社会課題を解決するための社会運動として、参加したくない社会運動 [複数回答形式]



◆関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動

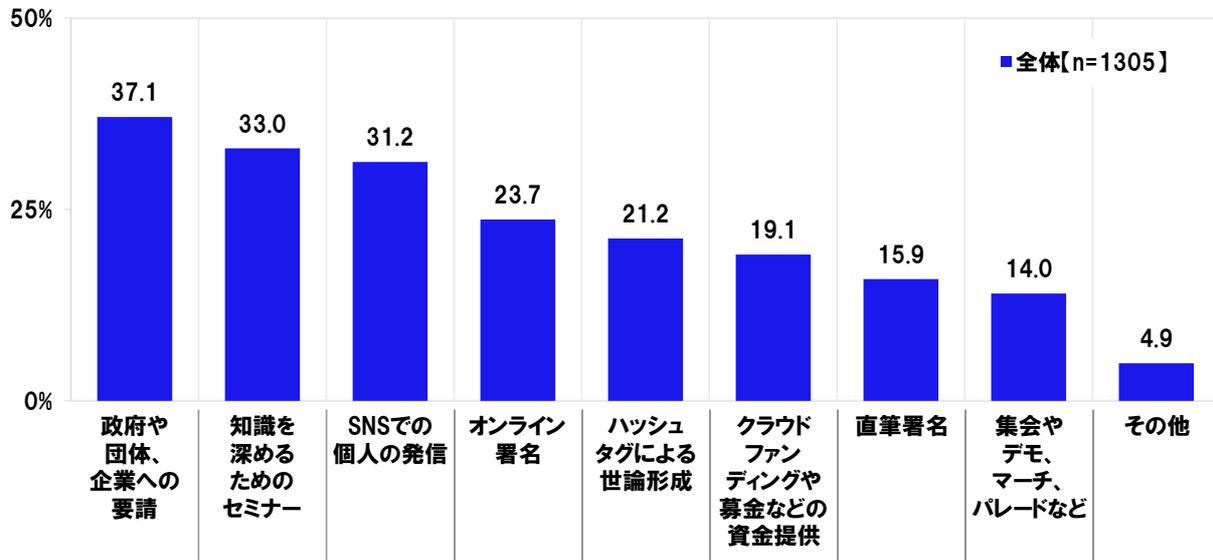
**環境、平和、健康、経済・社会、労働の分野では「政府や団体、企業への要請」が1位、
教育、ジェンダー平等、人権の分野では「SNSでの個人の発信」が1位**

最後に、関心のある社会課題について、それぞれの社会課題に関心がある人に、関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動を聞きました。

全体の結果をみると、「政府や団体、企業への要請」(37.1%)が最も高くなり、「知識を深めるためのセミナー」(33.0%)、「SNSでの個人の発信」(31.2%)、「オンライン署名」(23.7%)、「ハッシュタグによる世論形成」(21.2%)、「クラウドファンディングや募金などの資金提供」(19.1%)、「直筆署名」(15.9%)、「集会やデモ、マーチ、パレードなど」(14.0%)、「その他」(4.9%)が続きました。

関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動 [複数回答形式]

対象:社会課題に関心がある人



8 分野の社会課題ごとに参加したい社会運動をみると、【環境】【平和】【健康】【経済・社会】【労働】では「政府や団体、企業への要請」(順に 21.4%、30.7%、26.2%、28.9%、31.8%)、【教育】【ジェンダー平等】【人権】では「SNS での個人の発信」(順に 22.2%、26.7%、24.9%)が最も高くなりました。

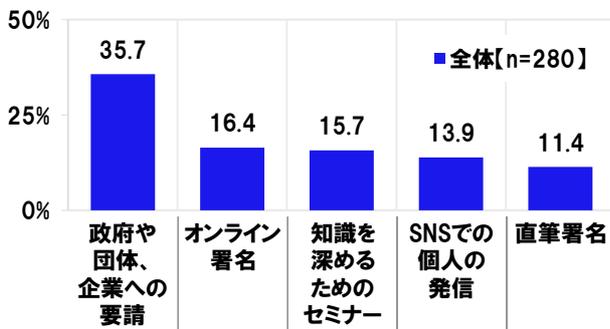
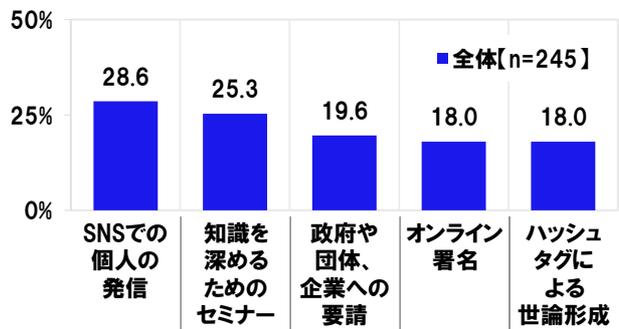
関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動 [各複数回答形式]
対象:それぞれの社会課題に関心がある人

	政府や 団体、企業 への要請	知識を 深めるため のセミナー	SNSでの 個人の発信	オンライン 署名	ハッシュタグ による 世論形成	クラウド ファン ディングや 募金などの 資金提供	直筆署名	集会や デモ、 マーチ、 パレード など	その他
環境 【n=308】	21.4	19.5	17.2	12.7	12.7	11.7	7.5	9.1	3.2
平和 【n=267】	30.7	22.5	15.7	13.9	13.5	12.7	11.6	13.1	2.6
健康 【n=470】	26.2	18.9	10.6	12.6	8.3	14.5	7.0	5.1	2.6
教育 【n=559】	21.3	19.1	22.2	15.0	10.0	9.5	11.8	9.1	2.5
ジェンダー平等 【n=520】	20.8	24.4	26.7	19.2	16.5	7.7	10.4	9.6	1.5
人権 【n=559】	22.9	23.4	24.9	14.3	14.1	7.9	8.9	6.4	2.3
経済・社会 【n=609】	28.9	21.5	14.3	14.9	8.4	11.0	9.4	5.4	3.0
労働 【n=506】	31.8	17.4	15.2	17.8	12.5	7.7	10.3	7.9	2.0

*黄色塗りのものは1位項目

(%)

全 36 項目のうち、社会人 Z 世代と学生 Z 世代の関心の高さが 1 位であった、長時間労働とジェンダーにもとづく差別についてみると、長時間労働では 1 位「政府や団体、企業への要請」(35.7%)、2 位「オンライン署名」(16.4%)、ジェンダーに基づく差別では 1 位「SNS での個人の発信」(28.6%)、2 位「知識を深めるためのセミナー」(25.3%)でした。

**【長時間労働】を解決するために参加したい
社会運動 [複数回答形式] ※上位5位までを表示
対象:この社会課題に関心がある人**

**【ジェンダーにもとづく差別】を解決するために参加したい
社会運動 [複数回答形式] ※上位5位までを表示
対象:この社会課題に関心がある人**


【参考】全 36 項目
関心のある社会課題を解決するために参加したい社会運動 [各複数回答形式]
対象:それぞれの社会課題に関心がある人

		政府や 団体、 企業への 要請	知識を 深める ための セミナー	SNSでの 個人の 発信	オンライン 署名	ハッシュ タグによる 世論形成	クラウド ファン ディングや 募金などの 資金提供	直筆署名	集会や デモ、 マーチ、 パレード など	その他	特になし
環境	気候変動 [n=104]	16.3	17.3	9.6	8.7	9.6	13.5	4.8	6.7	4.8	37.5
	エネルギー資源 [n=109]	22.9	18.3	18.3	8.3	9.2	9.2	8.3	9.2	0.9	30.3
	生態系および自然の保護 [n=85]	20.0	16.5	20.0	16.5	9.4	18.8	8.2	12.9	4.7	20.0
	大量生産・大量廃棄問題 [n=76]	25.0	18.4	17.1	17.1	17.1	6.6	7.9	5.3	2.6	31.6
平和	戦争・紛争・テロ [n=148]	27.0	21.6	15.5	12.2	10.1	8.8	8.8	12.2	2.0	21.6
	核兵器廃絶 [n=57]	31.6	29.8	14.0	17.5	17.5	7.0	22.8	24.6	-	19.3
	移民・難民問題 [n=43]	46.5	16.3	14.0	16.3	16.3	11.6	11.6	9.3	-	18.6
	被災地支援や防災 [n=66]	30.3	18.2	15.2	9.1	9.1	22.7	6.1	6.1	6.1	10.6
健康	健康・医療・福祉の格差 [n=118]	22.0	21.2	17.8	10.2	6.8	10.2	5.9	5.1	1.7	29.7
	貧困問題 [n=142]	23.9	14.1	8.5	18.3	9.2	20.4	7.0	4.2	-	26.8
	食糧問題 [n=91]	30.8	20.9	13.2	11.0	8.8	20.9	3.3	2.2	2.2	25.3
	高齢化問題 [n=198]	24.7	19.7	7.6	8.6	6.6	8.6	7.1	6.1	4.0	35.4
教育	教育格差 [n=101]	22.8	24.8	12.9	10.9	7.9	13.9	10.9	5.0	3.0	25.7
	いじめ [n=310]	18.1	19.7	23.5	13.9	10.0	6.1	9.7	8.4	2.6	22.3
	不登校 [n=119]	14.3	22.7	26.9	11.8	5.9	5.9	8.4	8.4	4.2	19.3
	奨学金問題 [n=161]	26.1	11.2	16.8	18.0	8.7	11.2	16.1	7.5	0.6	24.8
ジェンダー平等	女性活躍推進 [n=129]	19.4	31.8	22.5	22.5	13.2	5.4	9.3	8.5	0.8	24.0
	ジェンダーにもとづく差別 [n=245]	19.6	25.3	28.6	18.0	18.0	6.5	11.0	6.5	0.8	21.6
	選択的夫婦別姓 [n=76]	27.6	14.5	15.8	35.5	17.1	5.3	14.5	5.3	-	31.6
	性的指向・性自認 [n=158]	19.0	26.6	26.6	15.8	19.0	7.6	8.2	9.5	1.9	23.4
	暴力とハラスメント [n=134]	17.9	19.4	20.9	14.2	11.9	8.2	11.9	12.7	3.7	30.6
人権	個人情報保護 [n=88]	22.7	19.3	13.6	11.4	6.8	3.4	3.4	2.3	-	40.9
	メディア・ネットリテラシー [n=169]	22.5	20.7	28.4	13.6	16.0	4.1	8.3	5.3	1.8	25.4
	自殺問題 [n=251]	17.5	22.7	23.9	12.0	11.2	7.2	9.2	6.4	2.0	25.9
	児童虐待 [n=195]	23.6	23.6	20.5	15.4	15.9	10.8	10.8	7.2	3.6	19.5
経済	経済成長 [n=130]	28.5	24.6	12.3	10.8	6.9	7.7	3.8	6.9	3.8	33.1
	医療・社会保障 [n=227]	26.9	18.5	12.3	8.8	7.5	9.7	7.0	3.5	3.5	31.3
	デジタル化の遅れ [n=116]	28.4	19.8	15.5	17.2	4.3	9.5	4.3	3.4	0.9	34.5
	人口減少 [n=150]	21.3	20.0	9.3	8.7	6.0	11.3	9.3	5.3	2.7	32.7
	大都市一極集中と 地域活性化 [n=59]	32.2	18.6	11.9	11.9	8.5	3.4	6.8	3.4	1.7	22.0
	所得格差 [n=160]	32.5	13.1	11.9	16.9	9.4	6.9	14.4	5.6	1.3	31.9
労働	長時間労働 [n=280]	35.7	15.7	13.9	16.4	8.9	2.5	11.4	6.8	1.4	28.9
	職場のハラスメント [n=155]	29.7	16.1	16.8	17.4	11.0	4.5	9.0	8.4	3.2	26.5
	障がい者雇用の問題 [n=65]	24.6	24.6	12.3	20.0	10.8	18.5	13.8	7.7	1.5	20.0
	外国人労働者の問題 [n=54]	27.8	22.2	11.1	9.3	16.7	11.1	3.7	9.3	-	22.2
	非正規雇用やフリーランス などの問題 [n=78]	25.6	10.3	14.1	19.2	12.8	12.8	3.8	5.1	1.3	28.2

*黄色塗りのものは1位項目

(%)

■■調査概要■■

- ◆調査タイトル : Z世代が考える社会を良くするための社会運動調査 2022
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
全国の15歳～29歳の男女
- ◆調査期間 : 2021年12月21日～12月23日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,500サンプル

	15-19歳	20-24歳	25-29歳	計
男性	250s	250s	250s	750s
女性	250s	250s	250s	750s

- ◆実施機関 : ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

連合(日本労働組合総連合会)

総合運動推進局 運動企画局 担当:松野、岡本
TEL :03-5295-0538
Eメール :jtuc-undou-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

総合企画局 企画局 担当:陳
TEL :03-5295-0510
Eメール :jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

受付時間 :10時00分～17時30分(月～金)

■■連合(日本労働組合総連合会) 概要■■

組織名 :連合(日本労働組合総連合会)
代表者名 :会長 芳野 友子
発足 :1989年11月
所在地 :東京都千代田区神田駿河台3-2-11 連合会館
活動内容 :すべての働く人たちのために、希望と安心の社会をつくる